

大阪湾ベイエリアの活性化に向けた提言

「環境と成長の連鎖」を基軸に  
世界をリードするグリーンベイ・大阪湾  
～「パネルベイ」から「バッテリー・ソーラーベイ」そして「グリーンベイ」へ～

平成 21 年 3 月

大阪湾ベイエリア活性化方策検討委員会

資料 1-13

※次頁以降の当資料頁番号については、「大阪湾ベイエリアの活性化に向けた提言」の頁番号を採用した。



## 本提言の主旨

大阪湾ベイエリアを中枢に抱く関西は、職人の匠の技が息づいたものづくりが、現在に引き継がれ、多様なものづくり産業が重層的に集積している。

特に、大阪湾ベイエリアでは、近年、先端的な家電産業の大規模立地が相つぐなど、「パネルベイ」と評され活況を呈している。

直近の経済社会情勢は、米国のサブプライム問題に端を発した未曾有の世界経済危機に直面しており、緊急の対応が求められているが、一方で、大きな時代の変化に対応した、中長期的な視点に立った戦略的な活性化方策を立案していくことが重要である。

大阪湾の中長期的活性化方策を立案する際には、多様で厚みのある技術の集積や歴史・文化・知識の蓄積など、関西の特筆すべき強みを活かすとともに、今後の経済社会の根源的な課題となる環境問題への対応が鍵となる。

環境問題について、産業活動の「制約」あるいは、「対峙するもの」と捉えるのではなく、環境に良いことが経済的にも優位となる、環境創造産業が新たな富を創造し、ひいては地域の成長に繋がるとの認識に立ち、その発想を根本から転換することが必要である。

そこで、大阪湾ベイエリアの進むべき道として、『環境と成長の連鎖』を基軸に世界をリードするグリーンベイ・大阪湾」を提唱する。

大阪湾ベイエリアにおいては、すでに液晶パネルやプラズマディスプレイパネル、太陽光発電パネル、燃料電池など、世界中が取り組もうとしている新エネルギーや電気自動車などの環境創造産業が集積しつつあり、注目を浴びている。

環境創造産業は次世代を担う重要産業分野の一つであり、日本が主導し、世界に貢献できるものであることから、既に他地域に先駆けその芽が育ちつつある大阪湾ベイエリアで積極的な集積を図り、新たな展開を目指す。

それとともに太陽光発電やエコロジー輸送機関の導入、次世代型コンビナートの形成など環境に優れた効率的な社会基盤を形成し、大阪湾ベイエリア自体が国際競争力を有した環境先進エリアとなることにより、持続的な成長を目指す。

合わせて、知名度・ステイタスの向上を進め、先進的産業や人材を呼び込む魅力的なエリアの実現を目指す。

これらの目標の実現にあたっては、企業間、自治体間、時空間を越えたコンバージェンス（融合）が鍵となり、大阪湾ベイエリアに蓄積された人・もの・情報・知のコンバージェンス（融合）から新たな展開を図ることが重要である。

低炭素型社会に向けた積極的な取り組みは、貴重な環境を創出する地域、長期的な経済成長が持続する地域として、大阪湾ベイエリアのあるべき姿「グリーンベイ」に位置付けられる。環境と成長の連鎖がさらに上昇スパイラルを形成していくためのエンジンとして機能するものである。

今後、この方向性、「『環境と成長の連鎖』を基軸に世界をリードするグリーンベイ・大阪湾」に沿った方策を関係者が一丸となって推進することにより、関西の持続的な成長を実現し、関西の復権を目指すものである。

## [目次]

1. 大阪湾ベイエリアを取り巻く現状と課題	1
(1) 大阪湾ベイエリアの特徴	1
① 臨海部で進む大規模工場立地	1
② 大規模開発可能用地「夢洲」とフェニックス用地の存在	2
③ 優れた中小企業の集積、世界的水準の研究・技術開発環境が整ったエリア	3
④ コンパクトな空間に集積した物流・交流社会基盤	4
⑤ 本社機能・人口の圏外流出	7
⑥ 財政難に苦しむ自治体	8
(2) 大阪湾ベイエリア活性化に向けた課題	9
① 地域経済を牽引する次世代産業の誘致	9
② 企業活動の要請・スピードに即した新たな土地の創出・土地再編	10
③ 産業の国際競争力の維持・向上を支える社会基盤の形成	10
④ 環境に配慮した低炭素型社会への貢献	11
⑤ 自然災害への脆弱性	12
2. 大阪湾ベイエリアが目指すべき姿：グリーンベイ・大阪湾	14
(1) 世界をリードする環境創造産業が集積・成長するエリア	14
(2) 環境に優れた高機能空間が形成される先進的なエリア	14
(3) 高い国際競争力を持つ事業環境を備えたエリア	14
(4) 成長エンジンとなるコンバージェンス（融合）が強化されたエリア	15
3. グリーンベイ・大阪湾を実現するための方策	16
(1) 環境創造産業育成のための戦略的産業政策・立地政策	16
① 企業立地の促進に向けた支援策の検討	16
② 既存産業の再編・高度化に対する支援	17
③ 先端分野、環境・エネルギー分野の研究・技術開発などに対する支援	17
④ 高水準な大学・研究機関、産業基盤の集積・拠点形成	18
(2) 世界的な環境先進エリアの形成	19
① 世界的な太陽発電等の自然エネルギーの活用	19
② 先導的・戦略的な温室効果ガス削減への取り組み	19
③ 既存産業・コンビナートの構造改革のための支援	21
④ 魅力的な生活環境の形成	22
(3) 国際競争力強化のための社会基盤の拡充とサービス水準の向上	24

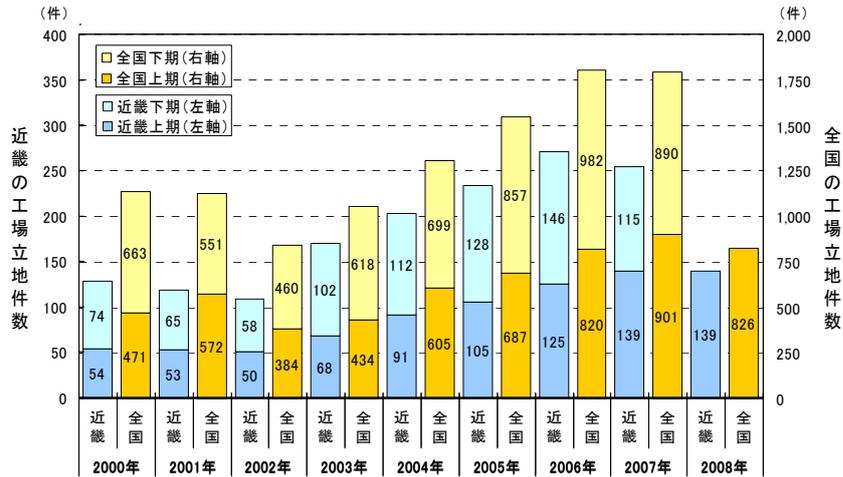
① ロバスト（強靱）ネットワークの構築と安全安心な地域づくり	24
② 陸海空におけるシームレスな物流体系の構築	26
③ 高機能付加価値型物流・産業拠点の形成	28
④ 新たな立地を可能とする効率的な用地提供	29
(4) コンバージェンス（融合）の強化・促進	31
① 企業間を越えたコンバージェンス（融合）	31
② 自治体間を越えたコンバージェンス（融合）	32
③ 時空間を越えたコンバージェンス（融合）	32
<b>4. グリーンベイ・大阪湾を牽引する地区</b>	<b>34</b>
(1) グリーンベイ・大阪湾を牽引する地区の概要	34
(2) 新しい産業連関構造形成を牽引する地区（神戸市）	35
① 現況の活性化方策	35
② 短中期の活性化方策	35
(3) フェニックス用地の利用を牽引する地区（兵庫県）	36
① 現況の活性化方策	36
(4) 産業・物流拠点を牽引する地区（大阪市）	37
① 事業段階の活性化方策	37
② 計画段階の活性化方策	37
③ 構想段階の活性化方策	37
(5) 低炭素型の新しい臨海拠点形成を牽引する地区（堺市）	38
① 事業段階・計画段階の活性化方策	38
② 構想段階の活性化方策	38
(6) 新規土地創出・既存都市再生を牽引する地区（大阪府）	39
① 構想段階の活性化方策	39
(7) 内陸産業拠点と臨海地域との連携を牽引する地区（和歌山県）	40
① 事業段階・計画段階の活性化方策	40
② 構想段階の活性化方策	40

# 1. 大阪湾ベイエリアを取り巻く現状と課題

## (1)大阪湾ベイエリアの特徴

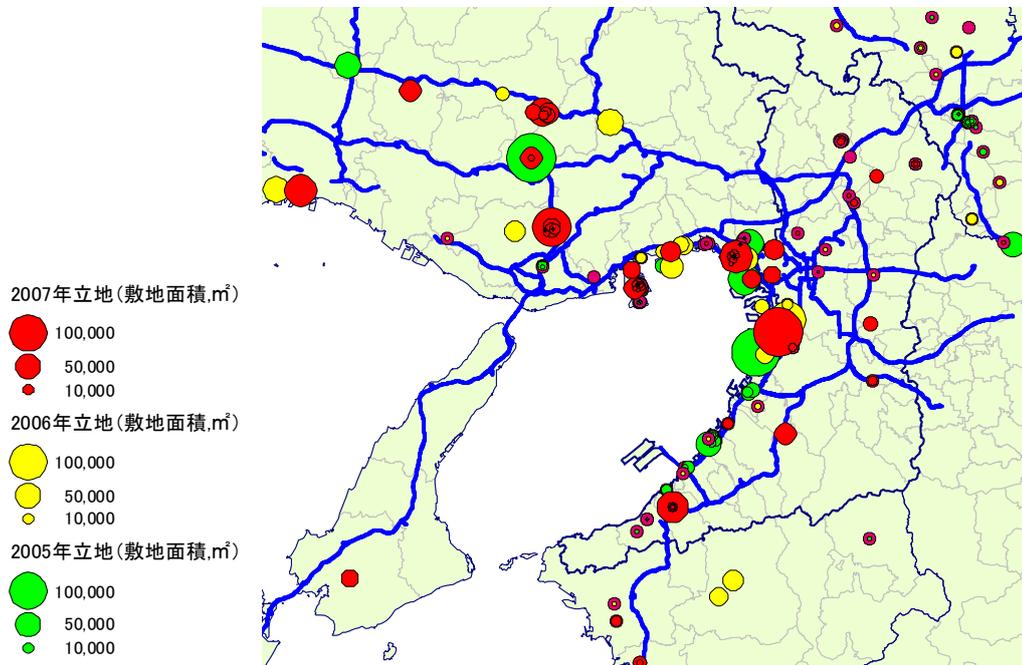
### ①臨海部で進む大規模工場立地

近畿の工場立地件数は、近年になり、高い水準で推移している。特に大阪湾ベイエリア臨海部では、先端家電産業や物流業等を中心に活発な立地が進んでいる。



(資料) 経済産業省「工場立地動向調査」より作成

図 1 - 1 近畿と全国の工場立地件数の推移



(注釈) 近畿地方において2005年～2007年の間に1,000m<sup>2</sup>以上の用地を取得(予定などを含む)し工場、研究所、物流施設を建設する主な計画(取得用地ベースの新設・増設)を有する企業。「日本立地総覧(2005年版、2006年版、2007年版)」(日本立地ニュース社)によるもの。

(資料) 国土交通省 近畿地方整備局「近畿地方における企業立地動向調査報告書」より作成

図 1 - 2 近畿地方における近年の企業立地状況(用地取得年ベース)

さらに近年の特徴として、パネル関連産業やバッテリー、先進医療などの先端産業の立地が挙げられる。世界同時不況の影響を受けて、企業によっては投資規模の縮小や稼働開始時期の延期などの計画変更が予定されているものの、中長期的には臨海部の活性化を牽引していく核となっていくものと期待される。



(資料) 各企業プレス資料などより国土交通省 近畿地方整備局作成 (2009年3月時点)

図 1-3 大阪湾ベイエリアにおいて進展する先端家電・電池関係産業立地

## ②大規模開発可能用地「夢洲」とフェニックス用地の存在

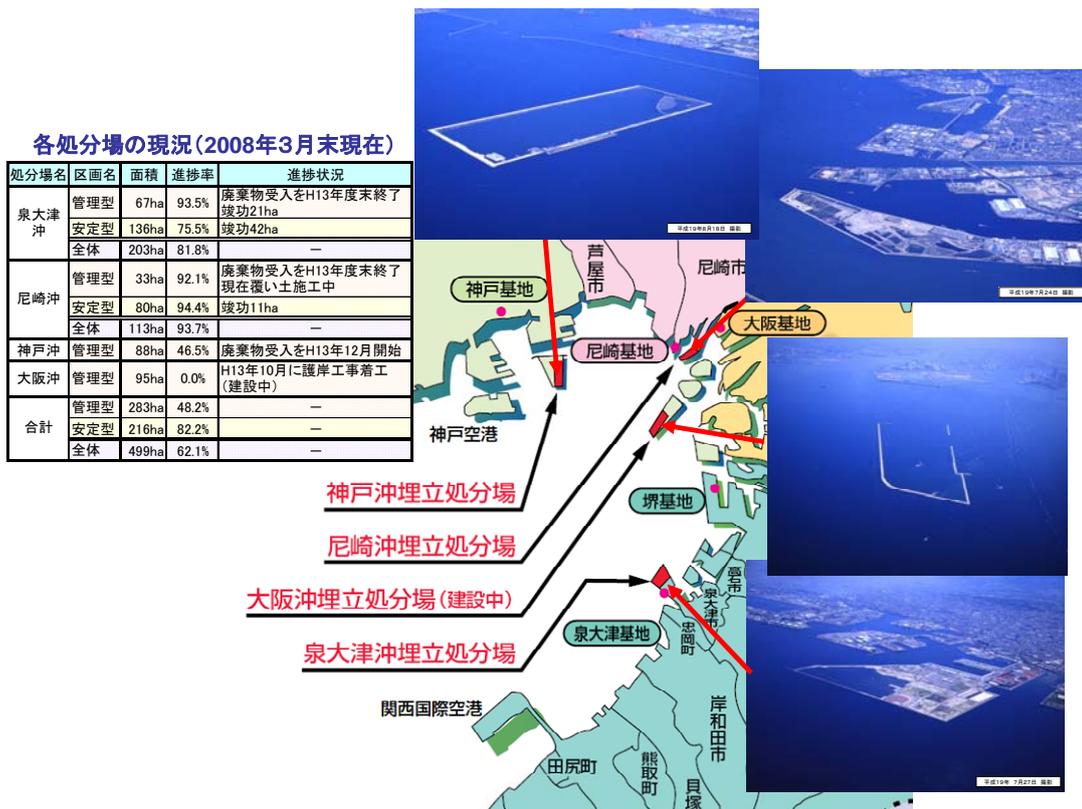
大阪湾ベイエリアにおける将来の土地利用においては、計画的、中長期的で低廉な土地を創出する仕組み、産業構造、操業環境の変化を見通した対応が必要である。大規模な開発可能用地である夢洲やフェニックス用地<sup>1</sup>などは、高いポテンシャルを持った土地として、大阪湾ベイエリアのあるべき姿の実現に向けた取り組みが期待される。

一方で、大阪湾ベイエリア周辺地域において生じた廃棄物を処理する埋立地として機能してきたフェニックス用地は、これまで分譲を前提に埋立が進められてきたが、廃棄物処理法の改正に伴い、管理型区画<sup>2</sup>については工場用地等としての売却が困難になってきている。

<sup>1</sup> フェニックス用地: 大阪湾フェニックス計画(近畿2府4県の大阪湾圏域から発生する廃棄物を海面埋立により適正に処理し、大阪湾圏域の生活環境の保全に資するとともに、港湾の秩序ある整備を目的として進められている計画)により創出される土地。

<sup>2</sup> 管理型区画: 外に漏れると環境に影響を及ぼす有害物質や汚濁物質を発生させる廃棄物が対象となる。埋立後に有害物質や汚濁物質を含んだ浸出水が生じるため、ゴムシートなどにより外部に漏れないような施設等が設置され、管理される。

一方、安定型区画は、環境に影響を及ぼさない廃棄物だけを用いて埋め立てる。このため、地下水への浸透を防ぐ遮水工や、公共水域への浸出水を処理する施設(浸出水処理施設)などは設けない。



(資料) 国土交通省 近畿地方整備局作成

図 1-4 大阪湾フェニックス計画の位置図、面積

### ③優れた中小企業の集積、世界的水準の研究・技術開発環境が整ったエリア

関西では、小型人工衛星「まいど1号」に象徴される高度なものづくり技術を持つ、多様な中小企業が集積している。世界でも高いシェアを誇る企業、高い技術・高度な部材で先端家電産業等を支えている企業、製品を自動車産業や航空産業に納入している企業もある。

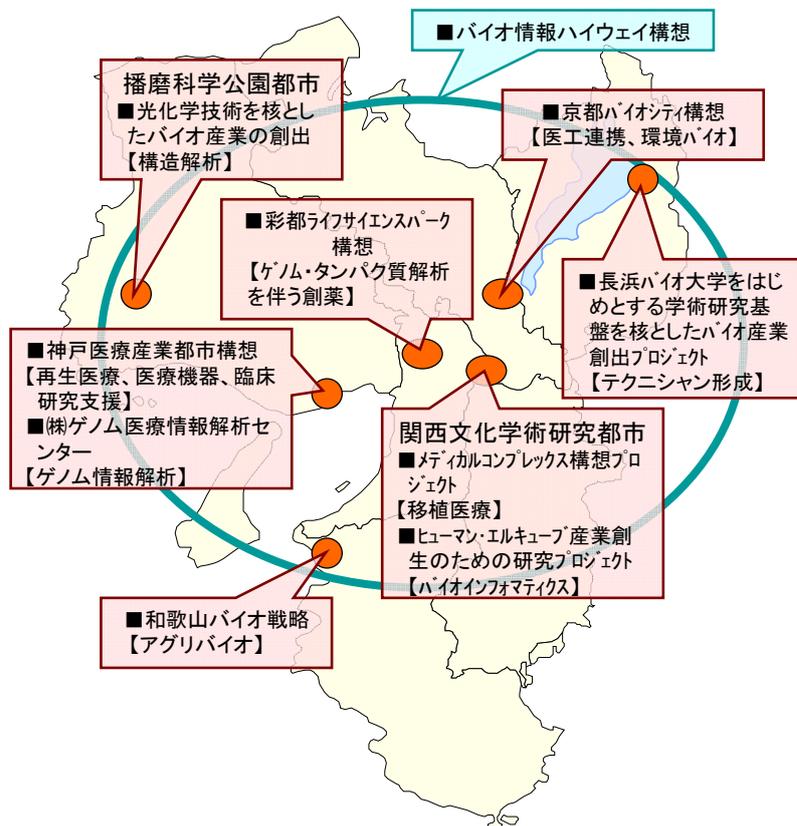
また、大阪湾ベイエリアでは、バイオ<sup>3</sup>・医療・ロボット産業などの先端技術を持つ産業が立地している。さらに、高い研究水準を有する学術機関、研究開発、人材育成の拠点としての役割を担う多くの大学、SPring-8<sup>4</sup>や次世代スーパーコンピュータ<sup>5</sup>をはじめ世界でも最先端の機能を持つ研究基盤・研究機関が存在する。

<sup>3</sup> バイオ：バイオテクノロジー (biotechnology) の略称。生物工学。生物学の知見をもとに、実社会に有用な利用法をもたらす技術の総称。

<sup>4</sup> SPring-8：兵庫県の播磨科学公園都市内に位置する、世界最高性能の放射光を利用することができる大型の実験施設。国内外の研究者に広く開かれた共同利用施設として、物質科学・地球科学・生命科学・環境科学・産業利用などの分野で優れた研究成果をあげている。

<sup>5</sup> 次世代スーパーコンピュータ：演算処理速度が一般的なコンピュータより非常に高速な計算機。2007年3月神戸ポートアイランド第2期に立地が決定し、2011年3月末の一部稼働、2012年の完成を目指して、(独)理化学研究所によって整備が進められている。

また関西の地形的な特性として、大阪湾ベイエリアを中心とした半径100km程度の比較的狭い範囲に人口や産業の集積地が点在している。大阪湾ベイエリアは、このように優れた中小企業、産業・大学・研究機関が比較的コンパクトなエリアに厚く集積しており、様々な分野で、世界的水準の研究・技術開発が可能な環境が整いつつある。



(注釈) バイオ情報ハイウェイ構想：バイオメディカル分野を中心に、関西の有する優れた大学やバイオ研究機関等のポテンシャルを活用し、情報と人のネットワークを形成。最終的には世界レベルのバイオクラスター形成を目指している。実施主体：大阪商工会議所、大阪府  
 (資料) 社団法人関西経済連合会HPより作成

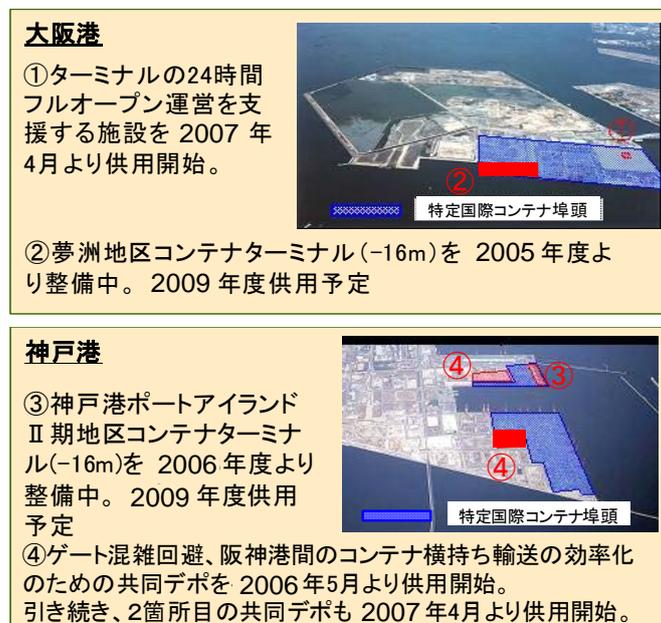
図 1 - 5 関西圏ライフサイエンスの国際拠点を形成するバイオ産業プロジェクト

#### ④コンパクトな空間に集積した物流・交流社会基盤

大阪湾ベイエリアでは、コンパクトな空間である臨海部に複数の国際港湾及び国際空港を有しており、臨海部と内陸部、内陸各拠点間を連絡する高速道路網も順次供用されるなど、交通社会基盤の整備・計画が着実に図られている。さらに、これらの優

れたハードを有効活用し、シームレス<sup>6</sup>で効率的な移動を実現すべく、今後の国際物流の効率化・利便性向上に向けて、国際物流戦略チーム<sup>7</sup>の取り組みが進められている。

このような中、スーパー中枢港湾である阪神港においては、2009年に世界最大級のコンテナ船も着岸可能な次世代高規格コンテナターミナルの本格供用に向け、整備が進められている。また、2007年12月には、港則法における大阪港（大阪港区、堺泉北港区）、尼崎西宮芦屋港および神戸港の港湾が統合され、「阪神港」として一開港化が実現した。関西国際空港は、2007年8月2日に2本目の滑走路が供用し、完全24時間運用可能な国際空港となった。鉄道では、2008年10月に京阪中之島線、2009年3月に阪神なんば線等、大阪都心部において新線の開業が相次ぎ、大阪都心部の東西軸が強化された。道路においては、都市再生環状道路、関西大環状道路などの整備が進められているが、ミッシングリンク（高規格幹線道路等相互の接続や途切れた区間）が残されている。



(資料) 国土交通省 近畿地方整備局作成 (2009年3月時点)

図 1-6 スーパー中枢港湾「阪神港」の機能充実にに向けた取り組み状況

<sup>6</sup> シームレス：「継ぎ目のない」という意味。物流・交流の分野では、複数の交通手段の接続性を改良することを意味する。交通結節点整備などのハード整備から、運行方法の改良、円滑な流動・移動に資する情報提供等のソフトのサービスまで幅広い取り組みが含まれる。

<sup>7</sup> 国際物流戦略チーム：2005年6月、関西の国際物流戦略チームが全国に先駆けて発足し、陸海空にわたる国際物流インフラの整備と活用に向けた活動を精力的に進めている。常に、広域連携の強化を念頭に置き、官民の関係者が協力した取り組みを行い、これまで、大阪湾諸港の一開港化をはじめ、評価される成果をあげている。